

秘仏

珍しい甲冑姿

お釈迦さま 家康木像

大聖寺



山号・院号	無動山・月照院
宗派	浄土宗 鎮西派
本尊	阿弥陀如来
本尊奥の秘仏	嵯峨清凉寺膳身釈迦像
創建年	正応元年（1288）
開基	唱阿性真（藤田派の祖）
住職	山田學應（35代目）
住所	岡崎市中之郷町元山21

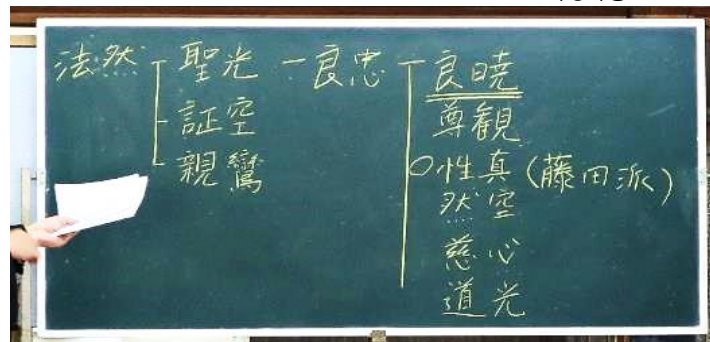
寺宝・什物

本尊 阿弥陀如来立像（安阿弥作・伝家康公寄進）、嵯峨清凉寺膳身釈尊像
甲冑家康像、「当麻曼荼羅」四分の一図

【山田住職のお話】 合掌後お話開始

10:01

10:18



- 当寺の開創（寺を新たに建てる）は、1288年です。法然上人が亡くなられて約80年後ですから、三河地域では、最初から浄土宗として開かれた寺としては、最古の部類でしょう。由緒ある浄土宗のお寺である大樹寺でも、1475年です。当寺を開山したのは、唱阿性真（藤田性真）です。
- 浄土宗の開宗は法然ですが、主な弟子は、①聖光（第2祖；九州中心に布教→鎮西派）、②証空（→西山派）、③親鸞（→「浄土真宗」）などです。

○3代目は、良忠（りょうちゅう）〔浄土宗第3祖〕。聖光の弟子で後継者。鎌倉（光明寺）で浄土教発展の道を開き、門下に6人の有名な弟子がいました。

○6人のうち、良暁（良忠の長男、白旗派）・尊観・性真（藤田派）は関東で、燃空・慈心・道光は京都で活動し、それぞれ派（関東三派と京都三派＝6流派）を起しましたが、ほとんど残っていません。今の浄土宗のメインは白旗派です。

○性真は6人の中で一番年上でしたが、関東から京都に上る途中、この地で奇瑞（きずい…めでたいことの前兆として起こる不思議な現象）に会い、寺を建てました。これが大聖寺の始まりです。当然、藤田派でしたが、当寺はその後白幡派に転じました。このあたりの高名な藤田派の寺には、豊橋の悟真寺（ごしんじ）があります。



勢至丸（幼少の法然上人）の像
知恩院信徒会館の座像が先代住職の目にとり、知恩院前の大西法衣仏具店にて制作。山門脇にある。



【歴代住職から、大聖寺の歴史を見る】…山田住職

- ◆開祖 性真 … 1288年開山。藤田派本山の扱いであった（現在使っている御朱印帳に押すハンコに、「大聖寺」とは別に「藤田故本山」という印がある）。場所は現在地ではなく、中之郷神社から矢作川堤防を含む一帯だった。子供の頃矢作川の河原に行ったが、古い土器が出てきた。大聖寺の跡だったということが伺われる。
- ◆3世 峯満 … 「峯」の名が付く僧侶の多くは、藤田流だと言われている。「峯」の名が付く住職は、その後、9世峯法（1449年没）・10世峯口（1464年没）・12世峯満・16世峯天・

17世炭故・19世炭誉（1614年没）まで見られ、藤田派とのつながりの深さがわかる。しかし、大聖寺は、宝徳年間（1449～52年）に**白旗派**に転派している。

- ◆15世 高善 … 三河に進攻した織田信長は、大寺が反撃の拠点となることを恐れ焼き討ちをかけた。1560年、旧鎌倉街道に近く、戦略的にも重要な地点であったと思われる当寺は、吉良から矢作川沿いに岡崎に迫った**信長勢の焼き討ち**によって全焼した。従って、現存の古文書は近世以降のものばかりである。焼き討ちは、15世空誉高善が住職の時であった。焼き討ち時の住職、高善は、家康の幼少時代（竹千代）の**読書や習字の師匠**であったと言われている。この地域の浄土宗の他の寺と比べ、当寺は、徳川家との関係は割と深くはないが、15世高善のそうしたつながりもあり、1605年に朱印地23石2斗を賜った。また、ご本尊も家康の寄進であるとされている。
- ◆22世 歴円 … 「中興の祖」と言われている。1680年、岡崎城主水野忠春より、7町歩（約7ヘクタール；1町歩=100×100m；小学校のグラウンドくらいの広さ）の寄進を受け、転地再建を始めた。正法寺（当時あった大聖寺の末寺）河原一円の荒地。これが現在の場所。1681年、伽藍工事が始まる。
- ◆23世 円了 … ①1693年、**鐘楼建立**。翌年、梵鐘鑄成。②各所ちりじりにあった**地藏尊をまとめ**、安置する建物を建立（厄除けと守護）。

本尊 阿弥陀如来



本尊の後に三つ葉葵紋



地藏堂 現；六ツ美西保育園の東北角にある



鐘楼



- ◆27世 林迪 … ①**葵紋金襴衣**を着ることを許された。林迪は、下青野浅井家から増上寺（浄土宗の七大本山の一つ）の62世となられた明譽徳翁大僧正の法縁にあたり、その口添えがあったと思われる。②1821年、末寺円通院の**馬頭観音**が「**三河秩父巡拝霊場**」第二十五番の札所となる。

馬頭観音；山門入って左の観音堂に祀られている。秘仏で5年に1回の開帳。



観音堂



- ③1825年、**清浄水の手水（ちょうず）石**を造建。
- ④1826年、**現本堂再建**される。（それまでは粗末な建物であった）。



屋根に
三つ葉葵紋

本堂

本堂と庫裏を
つなぐ廊下

◆29世 法旭 … ①1854年、東照宮（権現さん）を造営。甲冑家康像を本尊とする。東照宮は竜城神社の社殿が1948年に焼失したため、本殿は当寺から移築された。従って当寺には今は東照宮はない。

甲冑家康像（甲冑大権現）；元服の頃の家康。若く美しい。大変珍しいもので、全国に三体しかない（本宿の法蔵寺・豊田の隣松寺・当寺）。一時、「三河武士の館 家康館」に常時展示されていたが、現在も各地の博物館から多くの貸し出し依頼がある。



甲冑家康像

房花茶碗に東照宮の刻印



参考写真→

浜松市博物館に貸し出した時の報道写真から。特別展の目玉だった



②1864年、120坪の旧庫裏を造営。③1873年（明治6年）、朱印地の土地を没収され（官有地に）困難な時代に入った。直ちに官有地払い下げの運動始まる。④1887年、老後は、寺の隣（保育園寄りの、道路を隔てた東側）に「法旭庵」（現「法旭寺」）を建てて隠居した。

◇庵であったが、昭和26年に宗教法人法が制定されたこととともない、「法旭寺」と改称して、昭和29年に宗教法人登記を行った。今も、浄土宗（鎮西派）の寺院。

法旭寺



昭和4年頃、建てられたもの

六ツ美西部学区内のお寺

ウォークラリーのポイント地点になっているお寺は、法性寺・浄妙寺・大聖寺・妙国寺・松林寺の5寺です。学区内のお寺は5つと思っていましたが、他に、法旭寺・園教寺というお寺を地図上に発見できます。

寺院登記はしていますが、両寺とも似たような成り立ちで、他の寺とは違うようです。園教寺があるのは中之郷公民館のところですよ。

嵯峨清凉寺膺身釈尊像

参考写真 清凉寺の像のお顔



大聖寺提供写真



“わあー！大きいんだ”



の前は「前立本尊」といって、見ていただけない秘仏の本尊の代わりにということだが、当寺は、前にある阿弥陀如来は前立でなく、本当のご本尊である。。

◆30世 大祐 … 1880年、清凉寺式の釈迦如来像を造立（膺身像；模して彫成したもの）単に似ているというだけでなく、お精をいただいている。清凉寺の本尊が、出開帳で東京に向かう時、当地に寄っていただいて、両像対面の「お精移し」（開眼）が行われた。以来、秘仏とし、5年に一度開帳されることになっている。本日は、正面は駄目なので、横から拝観した。開帳時には、尊像を拭き清める（お身拭い）の法儀（仏法の儀式）がある。この尊像の清拭に使用した白布（晒し木綿）を「香染の浄布」といい、法要中、希望があれば信者に頒布している。香染の浄布は、子授・安産・子育てに靈驗あらたかと伝えられ、腹帯としたり、着衣の材や浄衣として、ご利益を授かっている。正面（内陣）に阿弥陀如来があり、その後に扉があって、扉の奥に釈迦如来が祀られている。善光寺など、多くの寺では、秘仏の前は「前立本尊」といって、見ていただけない秘仏の本尊の代わりにということだが、当寺は、前にある阿弥陀如来は前立でなく、本当のご本尊である。。

京都清凉寺（釈迦堂）の釈迦如来像＝釈迦の在世中に梅檀（せんだん）の木で造らせたという由緒を持つ霊像を模刻したもの。釈迦が37歳のときの生き姿を（ご存命のお釈迦様を目の前におかれ）刻んだものと言われており、等身大（162cm）。僧裔然（ちょうねん）が模刻させ、日本に持ち帰った。インドから中国→日本と渡ってきたことから「三国伝来の釈迦如来」と呼ばれる。昭和28年に検査したら、中から布で作った、この時代には正確な五臓六腑（内蔵）が出てきた。まさに生身の釈迦像であった。体内納入品も含め『国宝』。この像の模刻は、日本各地に100体近くあるといい、「清凉寺式釈迦像」と呼ばれる。

◆31世 愍海 … ①1888年、自持庵の再建。②1890年、山崎弁栄（浄土宗の僧侶・宗教思想家。大正時代に浄土宗の社会運動である光明主義運動を行った）を招き、念仏と布教の大法会を開く。揮毫時には「仏陀禅那」の署名。この時、寺額など、多くの揮毫を残す。③「観音講」組織。④「当麻曼荼羅（たいまんだら）」四分の一図新調。このあたりでは結構大きい。以前は年1回くらい公開していた。⑤1907年、官有地払い下げ許可下りる（30年間の請願）→経済的基礎の復旧なる。

参考写真 体内納入品 絹で作られた五臓六腑の模型



*自持庵は、東照山自持庵といい、江戸時代は朱印地4石であったが、昭和26年に、当寺に合併している。当寺には、自持庵の他にも、正法寺・円通院という末寺があったが、今はみな廃絶している。

土井利昌・利重の墓

●本堂の裏（西側）にある。墓の文字は、今は消えてしまっていて、何も読めない。「土井利昌父子」と書いてあったと伝えられる。

*土井（早乙女）利昌；土井利勝（家康・秀忠・家光に仕え、老中・大老もつとめた。古河藩主）の養父。利重？…利勝の孫にはいるんだが、利重が…



寺額 山崎弁栄（仏陀禅那）書



11:30 講話終了！

番外：自主学习

お賓頭盧さま（おびんずるさま）



賓頭盧尊（びんずるそん）。お釈迦様の十六人の弟子（十六羅漢）の一人。病を治す神通力（超能力）がとても強い。「なで仏」で、病んでいる部位をなでると除病の功德があるといわれる。神通力を世の人々に自由自在に誇示して見せたので、お釈迦様がお怒りになって、「お前は究極の悟りを得ず、この世にとどまって仏法を守り、人間の病を癒し、多くの衆生を救いなさい」と命令された。（破門された）。従って、仏様を祀る本堂の「内陣」に祀られることはない。本来は、堂内に入ることすら許されず、今も、本堂の外に鎮座しているところも多い。本堂内「外陣」（参拝するスペース）に安置されているところもあり、様々である。

“大聖寺は本堂内にあります。
どうぞ撫でてお参り下さい”



当日、横から拝観させて頂いた
嵯峨清凉寺膳身釈尊像

当日の写真

スリランカの象の置物



前住職がスリランカを訪問した時に贈られたもの。現住職の御祖母はスリランカと縁が深く、その頃からの貢献に対するお礼のようである。

植民地支配が始まる前のスリランカには、4万頭以上の野生のスリランカゾウが生息していたと言う。それがヨーロッパ植民地時代に激減し、1970年には2000頭にまで減ってしまった。現在は約7000頭らしい。外交上で象を贈呈することはよくあるようである。日本にも贈られている。

なお、象はインドでは神聖な動物とされ、お釈迦様の母上が懐妊された時に、白い象が体内に入る夢を見たとも伝えられている。